

令和4年度 関西創価高等学校 学校評価

1. めざす学校像

基本方針	「創造性豊かな世界市民」の育成
学校運営	困難に負けない強さと社会の変化に柔軟に対応するしなやかさを持ち、自他共の幸福のために貢献する「創造性豊かな世界市民」の育成をめざす。「校訓」を諸活動の根幹に置き、「主体的・対話的で深い学び」を軸に、地球的課題の探究を進める。

2. 教育活動における重点項目(中期的目標)

[I]「創造性豊かな世界市民」の育成

- (1)「校訓」を学び、友人と語り合う中で、自らの行動へと結びつける
- (2)「グローバルリーダー」としての資質の育成
- (3)英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)
- (4)ユネスコ・スクールとしての活動を活発化

[II]確かな学力で生徒の可能性を最大限に

- (1)生徒の興味・向学心を引き出す魅力ある授業の創造
- (2)各授業に「探究」を導入
- (3)家庭学習の定着により自学自習習慣の確立
- (4)キャリア教育の充実
- (5)豊かな読書環境の醸成

[III]安心・安全の学校づくり

- (1)キャンパス・校舎・通学路の安全確保
- (2)生徒指導全般の見直し
- (3)いじめ・暴力を未然に防止
- (4)多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和5年3月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の課題への取り組み、授業への参加について、共に半数以上の生徒が高い自己評価をしている。 ・生徒同士が話し合ったり、考えをまとめたりする時間が取られているという評価が65%と高い。 ・探究については「リサーチクエスションの作成」が印象に残った生徒が多い。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書環境の醸成、キャンパスの安全、いじめ・暴力の防止への取り組みについての評価が高い。 ・「家庭学習」「キャリア学習」の項目が、他の項目と比較して低い。 <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルリーダーとしての資質の育成に手ごたえを感じている。 ・授業の改善に取り組み、授業の質の向上を感じている教員が多い。 ・生徒指導全般の見直しが進んだと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高の一貫教育の利点を活かすための、キャリアパスポートを活用したキャリア教育に今後も期待したい。 ・校則検討委員会の設置について、生徒の考えを尊重しながら進めていこうとする姿勢を評価する。これからも丁寧な対応をお願いしたい。 ・交通事故の現場に遭遇した生徒が、適切な対応をしている様子に感動した。通学マナーもよい。 ・コロナ禍で様々なキャリア体験のプログラムが経験できなかった。仕事をする未来がイメージできるような取り組みを期待したい。

【分析】

感染症の影響下にありながら、多くの教員が様々な工夫を凝らして生徒の向学心を引き出すための授業や、対話的な学びが発動するような教材開発に取り組んだ結果、生徒の多くが授業の内容に満足を感じていることがうかがえる。今後は、ICT機器のさらなる活用や、個別最適な学びへの取り組みなど、新たな課題にも取り組んでいきたい。キャリア教育の重要性を再確認し、コロナ禍で十分にできなかった体験活動に特に傾注していきたい。

3, 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	取組みの内容	評価	改善点
ユネスコ・スクールとしての活動を活性化	ユネスコ・スクールとしての特色づくりに取り組む	ユネスコ・スクールとしての各種取組みに積極的に参加することを通して、本校の特色を高めていく。 ユネスコ・スクール同士の交流に挑戦する。	ユネスコ・スクールの全国大会でESD大賞(高等学校賞)を受賞することができた。SGH時代から継続して取り組んできた、SDGsに関連した学びの成果が評価され、ユネスコ・スクールとしての活動の一端を担うことができた。 カンボジア・スタディツアーに参加(1年生4人)し、カンボジアに寄付するための校内活動を行った。	依然として、感染症の影響で学校間の交流が難しい状況が続いた。いよいよ、状況も落ち着きを見せているので、今後、ユネスコ・スクール同士の交流を進めていきたい。
生徒の創造の興味・向学心を引き出す魅力ある授業の創造	先進的な教育手法を取り入れ、特色ある授業づくりに取り組む	教員相互で授業見学を行い、全体の授業力向上に資する。 授業力向上のための外部研修に参加しやすい環境を作る。 以前から導入している動画による研修をさらに推進し、活用する。	昨年度と比較し、高評価をしてくださっている保護者が増えた。授業公開で実際の授業を見ていただいたことが、大きいと感じる。 今年度も、予備校主催の外部研修に多数の教員が参加し、学んだスキルを教科内で共有し、全体のスキルアップに取り組んだ。 動画研修において、積極的に多くの動画を視聴する教員を多数輩出した学校として表彰を受けた。	保護者・生徒からの授業改善の取組みに対する高い評価を引き続き獲得できるように、継続して授業改善に取り組む。 ICT機器のさらなる活用や生徒一人ひとりの学びを個別最適な学びに近づけていけるような教務上の改善を模索していく。 授業の質をさらに高めるために、今後、業務改善を行い、授業研究の時間を確保できるようにしていきたい。
豊かな読書環境の醸成	教員の積極的な関わりを通し、名著・長編読了に挑戦する生徒を増やす	教員による「ブックナビ・ウイーク」(本の紹介週間)を通して、読書に親む環境を作る。 国語科による「ビブリオバトル」の取組みを通して、読書に取り組む、自分の言葉で本の魅力を説明するプレゼンテーション能力を涵養する。	ビブリオバトル全国大会優勝者、各種作文コンクール入賞者を生み出すなど、教員による日々の語り掛けや授業の工夫、図書館のキャンペーン開催などの取組みを通じて、「読んで」「考える」環境を整えることができた。	「ブックナビ・ウイーク」「ビブリオバトル」ともに、学校全体の読書人口の増加には寄与をしているが、高校時代に生徒に読んでもらいたい、所謂「名作」と呼ばれる作品や「長編」作品への挑戦を促すには至っていない。今後は、人類の共通の遺産としての名著に触れてもらえる取組みをいかに展開していけるかが課題である。
生徒指導全般の見直し	校則の見直し 多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」の推進	生徒と教員が、現在の学校の改善点と今後の学校の在り方について話し合うための校則検討委員の設置。 支援が必要な生徒に対して、学年主任・養護教諭・SC・管理職が情報を共有し、その後の支援方針を定めるための「支援委員会」を設置し、毎週情報の共有を図った。	女子生徒の制服の見直しが定着し、生徒・教員共にジェンダーに関する意識が高まった。 支援が必要な生徒の情報を、チームとして共有することで、担任が一人で抱えることが少なくなるとともに、支援の網を二重三重にすることができた。	昨年度の改善点に記載した「支援委員会」の開催を定例化することができた。今後は、委員会を継続するだけでなく、討議事項を充実させて、全ての生徒が「安心・安全」な学校生活を送れるような環境づくりに取り組んでいきたい。

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	評価平均値 上段:保護者、下段:教員	達成度評価 上段:保護者、下段:教員	評価の分析・実践と今後の展望	
教育活動における重点項目	[1]「創造性豊かな世界市民」の育成	1. 「校訓」を学び、友人と語り合う中で、自らの行動へと結びつける	1. GRITでの学び(創立精神学習)をより深化させる	3.1	A	保護者からは、家庭における子どもの言動を通して、創立精神学習の成果について一定の評価を頂戴している。教員としては、土曜日の重要な学びの一つとして「創立精神学習」を位置づけているが、他の探究活動とのバランスで触れられなくなってしまうという反省点を感じている。	
			2. 「創立者とともに」を積極的に活用し、行動の指針となるようにしていく	2.7	B		
		2. 「グローバルリーダー」としての資質の育成	1. GRITでの学び(探究学習)をより深化させる	2.9	B	GRITでの探究活動を自己アピールの材料として大学受験に挑戦し、合格を勝ち取るなど、高校での探究的な学びがその後の大学での学びにつながってきている。今後は、コロナ禍で実現が難しかった国際交流に取り組んでいきたい。	
			2. SDGsをより深く理解し、達成に向けて具体的に行動することを促進	2.8	B		
		3. 英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)	1. 基礎学力の定着の上に、積極的に英語を使う機会を増やす	2.8	B	本校のB1レベルに達している生徒の割合は、全国的にみると上位の学校のグループに属しているが、保護者からの期待に応えられているとは言い難い状況である。英語を学ぼうとする生徒の向上心に応えられるような、継続的な取り組みが必要である。	
			2. 学園の語学教育資産を積極的に活用する	2.5	B		
		4. ユネスコ・スクールとしての活動を活性化	1. GRITを通じてユネスコ・スクールとしての学びに取り組む	2.8	B	ユネスコ・スクールのESD大賞受賞という大きな評価を頂戴したが、対外的なアピールが不足していたと思われる。感染症のために他校との交流が難しかったが、状況も変化し、今後は交流へのハードルが下がることが予想される。本校の魅力の一つである、アースカム、堂の保存活動などを通じた交流を進めていきたい。	
			2. ユネスコスクールとしての特色づくりに取り組む	2.6	B		
		[2]確かな学力で生徒の可能性を最大限に	1. 生徒の興味・向学心を引き出す魅力ある授業の創造	1. Findアクティブラーナー等を活用し、自己研鑽に取り組む	2.8	B	講義形式の授業ではなく、対話的な学びが展開できているという生徒の評価をさらに高めていけるように、全教科にわたって授業の形を改善していきたい。
				2. 研究授業・授業公開を通じた授業力の向上を図る	2.5	B	
			2. 各授業に「探究」を導入	1. 学習指導要領の改訂に合わせて、各教科で「探究」を導入する	2.8	B	GRITの課題探究を中心として、校内における「探究活動」は一定のレベルに達していると考えられる。一方で、各教科での取り組みの状況に差があるので、知識・技能の習得に偏重している教科・科目の改善に取り組んでいきたい。
				2. 「多面的評価」を含め、評価方法を研究する	2.6	B	
3. 家庭学習の定着により自学自習習慣の確立	1. スケジュール管理ができるように働きかける		2.7	B	教科によって、家庭学習を必須とする形態をとっていない授業があり、教員間で「家庭学習」の重要度に対する認識の違いが生じている。		
	2. スタディサプリを積極的に活用する		2.2	B			
4. キャリア教育の推進	1. 学年ごとに計画的な進路指導を実施する		2.7	B	夏休みを利用して志望大学のオープンキャンパスに参加する取り組みや、校内での大学別説明会の実施など、学年や進路指導部としての進路指導は充実してきている。		
	2. キャリアデザインを通し、適切な将来設計を後押しする		2.4	B			
4. 豊かな読書環境の醸成	1. 教員の積極的な関わりを通し、名著・長編読了に挑戦する生徒を増やす		2.8	B	「ブックナビ・ウィーク」「ビブリオバトル」ともに、学校全体の読書人口の増加には寄与しているが、高校時代に生徒に読んでもらいたい、所謂「名作」と呼ばれる作品や「長編」作品への挑戦を促すには至っていない。今後は、人類の共通の遺産としての名著に触れてもらえる取り組みをいかに展開していけるかが課題である。		
	2. 探究活動の中で、専門書などの高度な知識にアプローチさせる		2.7	B			
[3]安心・安全の学校づくり	1. キャンパス・校舎・通学路の安全確保		1. キャンパス・校舎・通学路の安全点検	2.9	B	外部業者による通学路の安全確保や校内巡回による危険箇所の早期発見と対応が評価されたものと思われる。現在行っている、生徒の立場からの通学マナーへの意識啓発などを通して、今後も通学マナーの向上に取り組んでいきたい。	
			2. 学校内・通学路におけるルールの徹底	2.8	B		
	2. 生徒指導全般の見直し	1. 校則の見直し	3.1	A	昨年度の改善点に記載した「支援委員会」の開催を定例化することができた。今後は、委員会を継続するだけでなく、討議内容を充実させて、全ての生徒が「安心・安全」な学校生活を送れるような環境づくりに取り組んでいきたい。		
		2. 生徒指導マニュアルの改訂	3.0	A			
	3. いじめ・暴力を未然に防止	1. アンケートや懇談を通し、生徒の声をよく聴く	2.9	B	問題行動は全体的に減少の傾向にあるが、SNSが関係するなど、複雑化する傾向がある。生活アンケートの実施などや日ごろの担任との懇談を通して、早期に生徒が抱える諸問題に気づけるようにしていきたい。		
		2. 他人を思いやる心の育成 ※創立精神学習との連動	2.8	B			
	4. 多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進	1. 多様性を互いに認めあい、尊重できるような環境を整える取り組み	3.0	A	本校の大切な信条である「他人の不幸の上に自分の幸福を築かない」という精神が日ごろの活動においても定着していることがうかがえる。創立精神の学習を通して、「人権教育」が行えている部分があるが、バランスよく実施できているかどうかの点検が必要である。		
			2.8	B			

※評定平均値は、保護者・全教員が4段階で評価した平均値。
 ※達成度評価については、評価平均値の3.0以上をA、2.9~2.0をB、1.9以下をCとした。